巻頭特集

片樋のまんぼ

200年以上に渡り、地域の水田を潤す地下水路

まんぼとは、水を引くために掘られたトンネルのことをいう。
全国でも鈴鹿山脈東麓に多く分布している。
技術の発達で用水路が整備されるにつれ、次第に使われなくなったが、いなべ市大安町には現在も農業用水として利用されているまんぼがある。

片樋のまんぼは、いなべ市の史跡に指定（平成9年1月22日大安町指定）されている。写真は平成12年に大安町ふるさと景観支援事業で建立した石碑

高台に位置する片樋地区 古くより灌漑用水が不足

いなべ市大安町片樋地区は三方を員弁川、青川、源太川に囲まれているが、大半の耕作地が河川よりも高台にあり、農業用水の確保には苦労を重ねてきた。源太川の上流から水を引くも、左岸が絶壁のため漏水が多く、水不足は深刻だった。

持統10（696）年、行基がこの地を訪れたと伝わる。全国を巡って布教の傍ら、土木や治水などの事業にも貢献していた行基は、農民たちが難渋する様子を見て、L字型の樋（片樋）を作って水を通すように教えた。すると、漏水が止まった。これが「片樋」の地名の由来といわれている。

時代は下り、江戸時代中期。片樋地区では源太川から「上井水」「下井水」の2つの水路を引いていたが、日照りが続けば途端に水不足になるほど、水の絶対量が少なかった。特に新田開発には大きな支障となっており、第3の用水路の必要に迫られていた。

そこで考え出されたのが、地表から約3~7メートル下を素掘でトンネル式に横穴を掘り、地下水を集めて農業用水に利用する方法だった。この地下水路を「まんぼ」と呼ぶ。

「水源としたのは、主に宮山の浸透水（地下にしみ出た水）です。水田から地下にしみこんだ水も、再利用する形になります」と、ふるさといなべ市語り部の会の伊藤美善さんが教えてくれる。

ふるさといなべ市語り部の会
伊藤美善さん

新たな水源の確保のため まんぼの掘削工事に挑む

まんぼの語源は定かでない。漢字では「間風」「間歩」「間保」などと書く。「鉱山の穴、坑道。坑道に入ること」を意味する言葉「まぶ」の漢字表記「間府」の派生といわれている。まんぼの掘削に、鉱山技術者が関わっていたと考えられるからだ。

まんぼは、高さ4尺（約120センチ）、幅3尺余り（約1メートル）の横穴で、掘り出した土砂や石などを出すための竪穴は、30~40メートル間隔で掘られる。そんな掘削技術を農民は当然持ち合わせていない。近隣にあった治田鉱山の坑夫を雇うなどして、技術を学んだと推察される。

毎年7月に執り行われるまんぼ祭り。中央口に祭壇を設け、まんぼから汲んだ水を供える

水不足の解消を願い、庄屋と農民が一丸となって、まんぼを掘った。工事は明和の末期（1770年頃）に着工したが、慣れない作業から落盤が相次ぐなど難航した。当初はわずかな水しか流れず、用水と呼べるものではなかった。安永4（1775）年7月にようやく完成を見る。

しかし、安政の大地震（1855年）で被害を受け、水の出が悪くなってしまう。文久2（1862）年、時の庄屋が修復と延長工事を行い、再び十分な水が供給されるようになった。延長工事としては、青川の伏流水を引く計画だった。しかしながら逆勾配となるために中途で断念したという。2回の工事でまんぼの総延長は約1キロに及び、国内有数の規模を誇る。まんぼの水は新田を潤し、約80石の増産になった。

先人の遺徳や苦労を伝える 庄屋墓地と顕彰碑を整備

まんぼの築造には莫大な資金、労力、時間が必要だった。工事にかかる費用は庄屋が工面した。第1期工事では庄屋の冨永太郎左衛門が、第2期工事では庄屋の二井藤吉郎が、それぞれ私財を投じた。

伊藤さんによれば、両庄屋はまんぼの工事で全財産を使い果たし、人目を避けるように片樋を去っていき、郷里の其の原でひっそりと息を引き取ったそうだ。のちに、このことを知った村人たちの手によって墓が建てられた。

ふたりの庄屋の功績とまんぼ建設の苦労を後世に伝えようと、地区内には「庄屋墓地」が整備され、「間風顕彰之碑」が建立されている。さらに、毎年7月1日に近い日曜日には「まんぼ祭り」が執り行われ、大神社の宮司や区長、農業関係者らが参列し、先人の遺業をたたえると共に、水利の安全を祈願する。

片樋のまんぼは、現在でも約8ヘクタールの水田の農業用水として利用されている。例年、大寒の頃に堆積した土砂などを排出する「まんぼ淩え」を行って、維持管理に努めてきた。

「片樋地区も農業人口が減少していますが、それでも地区の約5分の1にあたる田んぼが、まんぼの水で灌漑を行っています。片樋のまんぼは現役の用水路であると同時に、貴重な文化遺産でもあります。先人たちが苦労して確保した水の恵みについて、ぜひ知ってほしいですね」と伊藤さんは語り部として伝えていきたいと話す。

❶まんぼ内の様子。水位20～40センチの水が常時流れていたが、近年は幹線道路の改修工事やほ場整備などの影響で冬期は水が涸れるという　❷片樋の集落内にある「まんぼ中央口」。見学できるように整備されており、案内解説板なども設置されている　❸平成14年に建立された「間風顕彰之碑」❹まんぼの出口。かつては素掘りだった出口も、現在ではコンクリート造りだ　❺❻教楽寺の境内にある碑。農民に片樋を作って漏水を止めるように教えたと伝わる行基の詠歌「茂留滑美津（もるいみつ）片樋天登遠世登（かたひてとをせと）教留遠（おしうるを）聞天耕寸（ききてたがやす）民曽楽武（たみぞたのしむ）」が刻まれている　❼まんぼ建設に尽力したふたりの庄屋の慰霊碑（墓地）が、員弁第一街道の脇に建立されている

文／長屋整徳　写真／編集室　デザイン／chica　ふるさといなべ市の語り部の会への問い合わせは、☎090-3583-2827(代表 伊藤 忠さん)まで